大和川今池遺跡

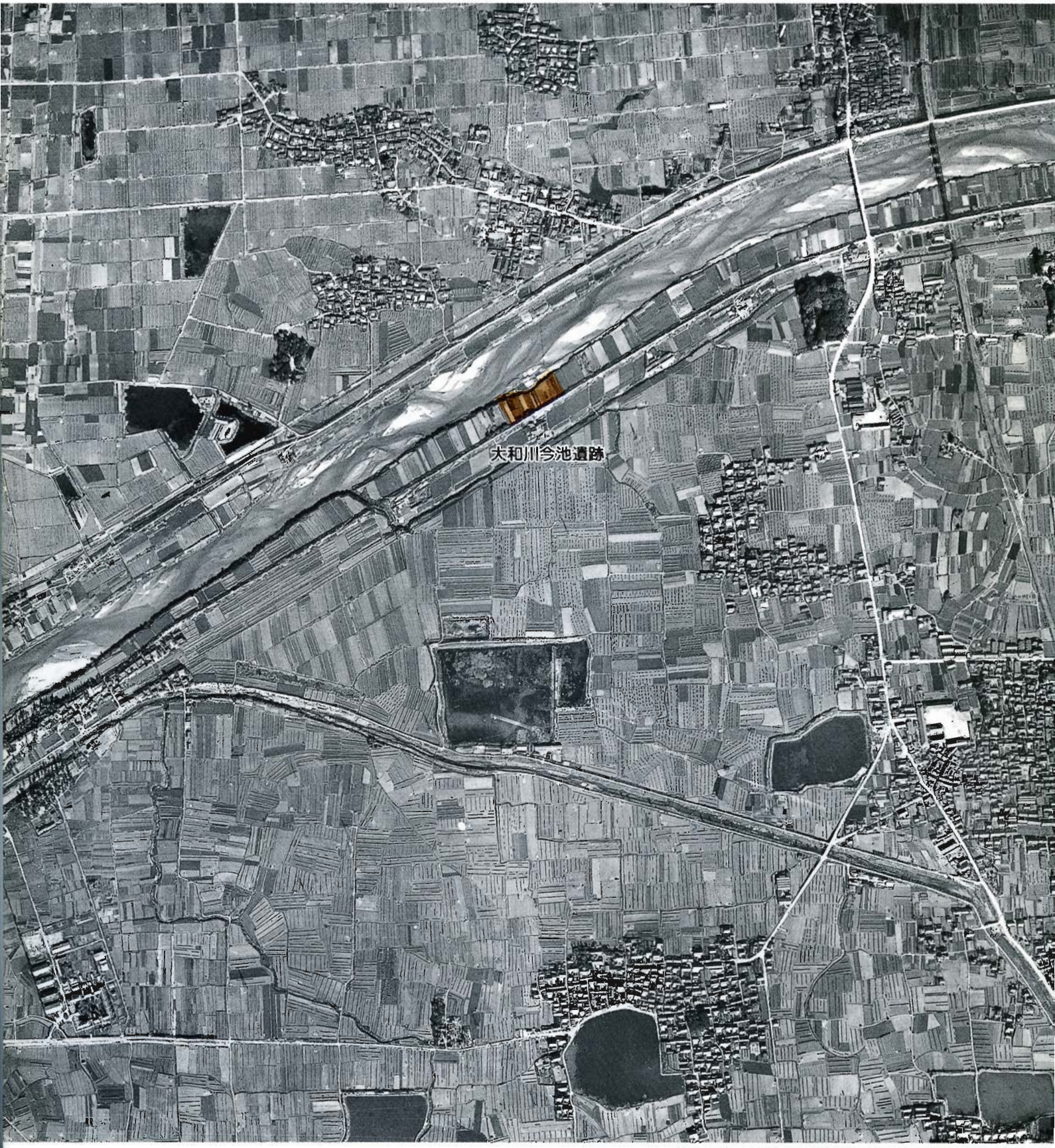
1998. 2. 22

(財)大阪府文化財調査研究センター

大和川今池遺跡の位置

大和川今池遺跡は堺市と松原市に跨がって所在しています。今回の調査区は大和川の左岸に位置していますが、大和川は江戸時代に付け替えが行われているため、本来は南から北へのびる台地とその周辺にあります。

これまでの発掘調査で旧石器時代から近世までの生活の痕跡が確認されており、非常に長い間この地で人々が生活していたことがわかっています。なかでも、この遺跡を有名にしたのは難波宮と大津道を一直線に結ぶ古代の道路跡「難波大道」でした。また、『古事記』や『日本書紀』に出てくる「依羅池」の一部も発掘調査で確認されています。



大和川今池遺跡の位置

調査の経過

今回の発掘調査は大和川の洪水対策の工事に先立って行われています。

昨年度の調査では古墳時代前期から中期にかけての土坑などが見つかりました。古墳時代前期の土坑は複数がまとまって検出されており、赤い焼き物である土師器の甕・壺・高杯などが出土しています。

今年度の調査区ではこの地の有力者が拠点としたと考えられる鎌倉時代後期の居館跡を確認しています。調査によって掘立柱建物とそれを囲う方形の濠、さらに東側には相前後する時期の掘立柱建物群と濠に平行する溝を検出しました。

空から見た大和川今池遺跡（南側から）

1996年度の調査風景（東側から）

今年度調査した古墳時代の土坑

古墳時代前期の土坑の土器出土状況

作業風景（東端の溝を掘る）

居館跡

居館は周囲をめぐる濠から一辺47mから50mの半町の規模
館の中心部には後世の粘土取り穴がありましたが、大型の建
考えられます。建物の柱穴は整地した上から掘り込まれてお
行なわれたことがわかりました。

方形にめぐる濠は幅３～４ｍ、深さ0.4m～0.5mをはかり
は南側の中央部で途切れていることから、入り口は南側にあ
ます。

居館の変化には２つの段階があります。最初の段階には方
ます（Ｉ期）。次の段階は、最初の濠の外側に濠が掘り直され
には周囲を取り囲む溝が埋まり、居館は終わりを迎えます。

これらの濠からは土師器・瓦器などの土器に伴なって大量の
と書かれた墨書土器・硯・石鍋などが出土しています。「観
が残っていることからも居館の近くに寺院があったと考えら

区画した濠の南西部分

区画した濠の南東部分

正面

南北方向の濠（東側）の断面

復元されます。居
が存在したものと
、大規模な造成が

す。東西方向の溝
たものと推定され

の濠が一重に巡り
ます（II期）。最終

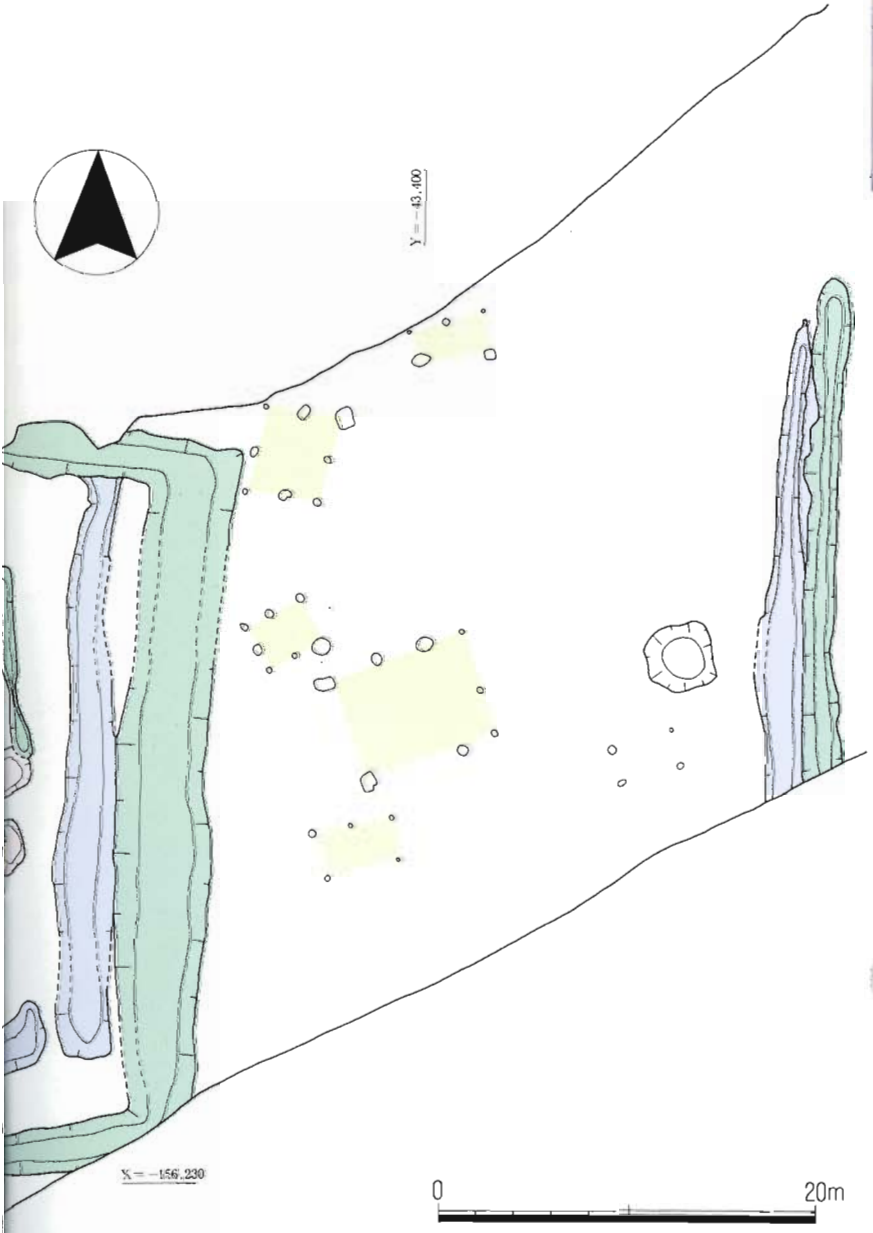
瓦が出土し、『寺』
堂」という小字名
ます。

巴文軒丸瓦を出土した土坑

東側の掘立柱建物群

ピットの中の土器・瓦出土状況

掘立柱建物群と東端にある南北方向の溝



居館の調査（略測図）

出土した硯

文字の書かれた土器

土坑170の土器・瓦出土状況（濠に切られている）

木枠が見つかった井戸

曲物と土器が納められた土坑

その前の段階

これらの建物群や濠より古い段階の土坑などが確認されています。もっとも古いものは12世紀後半に遡りますが、居館の濠の中から出土した土器や瓦にも古いものがあることから、この時期に次の居館への素地がつくられたものと考えられます。

中には耳杯・托（脚付の土師器皿）・瓦器椀などを出土した土坑があり、周辺で祭祀を行なったものと考えられます。そのほか、木枠を使用した井戸が見つかっています。この井戸からは土師器の皿・瓦器椀や木製品として下駄が出土しています。曲げ物の中に土師器小皿や瓦器小皿を入れた土坑もありました。この時期のものはいずれも集中はせず調査区の中で散らばって存在しているのが特徴といえます。

東西方向の濠の底で見つかったピット（穴）

土坑128の土器

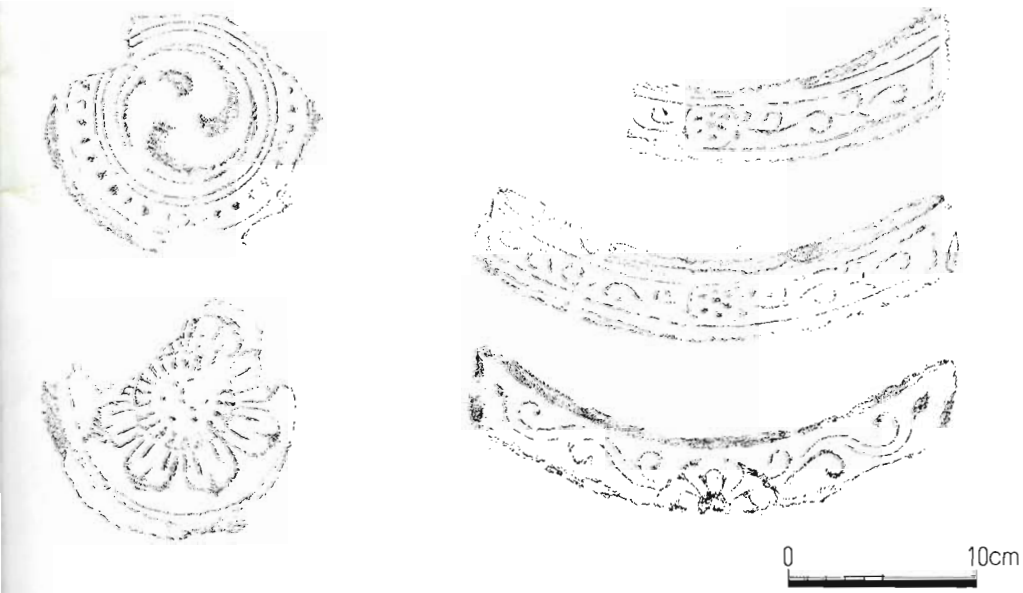
土坑128の土器出土状況

出土した遺物

柱穴・井戸や溝などから赤い土師器・青い須恵器、真っ黒な瓦器などの土器や瓦などがたくさん出土しています。瓦には平瓦と丸瓦に混じって軒先に葺かれる軒瓦も含まれていました。

方形の濠や東西方向の溝からみぞ出土したものには時期幅がありますが、13世紀後半～14世紀前半の時期の土器が多く出土しています。ほとんどは日常雑器である土師器・須恵器・瓦器でした。素堀りの井戸の中にも同じ時期のものがあります。

出土した軒瓦



軒瓦の拓本

溝から出土した土器

濠から出土した瓦と土器

出土した瓦器椀

焼けた瓦

まとめ

今回の調査では、鎌倉時代後期に営まれた方形の濠をもつ居館跡を確認しました。大和川今池遺跡ではこれまでの調査でこれほどの規模をもった同時期の遺跡はなく、この地にあっての中心地であったと考えられます。この居館には周辺に影響を及ぼした有力な人が住んでこの時期に威容を誇っていたと思われます。そして、鎌倉時代末期から南北朝の動乱の波が押し寄せ軍事的な緊張とともに防禦性が高まっていくのが居館の変遷にあらわれました。

今回は居館跡全体について各時期にわたる変遷を調査しており、単なる地域景観の復元のみならず、当地域の中世社会を知るうえでの非常に重要な発掘調査となりました。

大和川今池遺跡　大和川今池遺跡現地説明会資料

発　行　(財)大阪府文化財調査研究センター
〒536-0016　大阪府城東区蒲生２―11―３　小森ビル４階

発行日　1998年２月22日
印　刷　(株)中島弘文堂印刷所